

比較から見る遺跡のあり方

要旨

氏名：作本 涼

山梨県と長野県の県境付近にある尖石遺跡、井戸尻遺跡、梅之木遺跡には様相が全く異なる「ふくげん」住居が各々建設されている。計画書等を精読しながら、現場で実際に働いている人々にインタビューを行っていく中で、その「ふくげん」住居の建設に至るまで多くのステークホルダーが存在しており、三者三様の学問的立脚に沿っていることが分かった。これらの「事実」は文字として残っておらず、現在関わっている人々がいなくなれば、この世から完全に消し去られてしまう物事でもある。考古学は発掘された「もの」だけではなく、その発掘に至るまでの過程及び、発掘する人々のバックグラウンドまでも内包しており、私たちは「もの」だけではなくそれを作り出す主体及び経緯までも研究の対象になりうるし、失われるこれらこそ保存していかなければならない。